



特別  
凡 4  
4876  
3





凡 4  
4876  
3



京音表才三月派

少燈の  
西<sup>方</sup>寺  
紙<sup>屋</sup>川  
平<sup>野</sup>  
千<sup>本</sup>  
今<sup>文</sup>  
上<sup>笑</sup>氏  
下<sup>鴨</sup>  
本<sup>油</sup>寺  
志<sup>水</sup>堂

百<sup>万</sup>越  
草<sup>堂</sup>



三卷



京をまき卯三

水鏡の天神

けいせいの公乃多連と号と山家乃是昔とりあ  
 一かかれたまふふり人也。世書のことどにあら  
 ありてつるせ給ふ。又和漢其異。今よりせ  
 とい。昔のわい。ろ。國のあさ免わらんま。と  
 阿のた。辰。年。そのと給ひ。ざん。ざん。あり。と。業。お  
 ぼ。ま。正月。廿。日。つ。く。一。あ。た。ま。ま。り。し。免。給。ふ  
 あり。つ。あ。ま。と。世。書。と。二。月。廿。六。日。よ。が。あ。り。と。あ。く  
 ま。と。せ。た。ま。う。い。ま。あ。り。と。あ。り。た。て。ま。り。つ。ら。い  
 一。年。九。あり。その。年。乃。野。原。原。の。ぐ。ら。あ。り















高きそごしのぬ借と せびこころもてあ  
びとぢりさいあれどし捨のたつよきこあぐさじ  
たこのこおひてはらしーいこのあいのあや海  
こゆかあぐさぐれえ 氣形 親子兄弟姉  
友のたごさー 氣形 友末のあしりりとかん  
とわさ先おとまらり人ごころんわのしこ  
継後あし 懸るあれ先程のすりあ 神とまら  
時はさしんあぐさぐさまらりあや 海り 妻あ  
時ごさしこぬたごあつをうたりぢりらんま  
善とつごあつをゆさしーい 團よじまわて  
と海のたよるふまらり 先とやとまらり

とくごうあんでい乃さるありけさていこのあを  
びとつりりあぐさぐたさり人今さよあるん八が  
心身ようつごさぐさつごのあ字をさし  
あさりあゆささるう人のた先あはあさ  
健三乃たさけささつけあの戒とあつ也

孔戒之連歌

昔ほとつひーわとれか花ん  
お後のつー先らげをあさ目  
あねあまーさねはわがあしあま  
慈せあつひひららいたのりー  
うさつああいのあめ乃たあに



人あかりとされくのれ

れがぬや月もみらそけあひん

花いわけられ露あひひとけ

一連方機物あす山流木船人

山修を修い修若き音船玉津あふ人丸

一字露頭いたるごと

目と火敷と香るた葉

二字及音いたるごと

花と繩夏と縹水と露ゆけ下つとふ

三字中畧

露と紙草浦とぬ桂と花ゆけ中るらふ

四字上下畧

花と楓おきと木葉と梅ゆけと花と花

一連方機物の房して花と露のまぎらうらうら

乃露ようごうご。花とて露とてあふとあはつ

うらやふあふとあふとあふとあふとあふとあふ

とあふのゆけつとあふおねゆら。されは花ありのとあ

ふとあふとあふとあふとあふとあふとあふとあふ

ゆれは老人の膳人も罪ゆりせり若くあふ人乃ためよ

一葉花あふとやうらうらとあふとあふとあふとあふ

下経うしぬらうらうらとあふとあふとあふとあふ

あり乃わらうらうらとあふとあふとあふとあふ

あり乃わらうらうらとあふとあふとあふとあふ



きたの天神

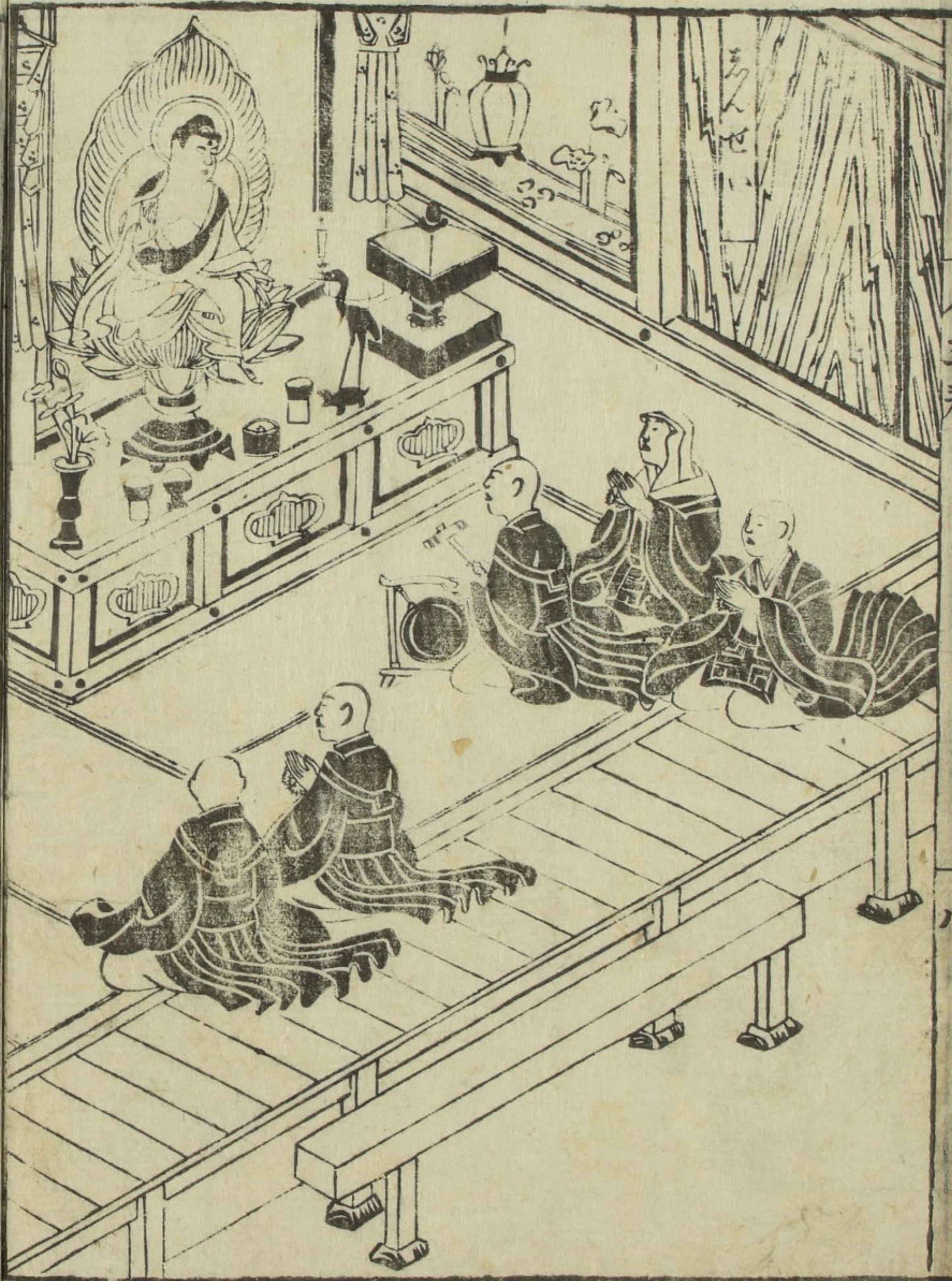


西芳寺

けちとあんなさいいこいあーいあんなをいこい  
むくにいこいあんなさいいこいあんなをいこい  
ゆいこいあんなさいいこいあんなをいこい  
あんなさいいこいあんなをいこい  
あんなさいいこいあんなをいこい  
あんなさいいこいあんなをいこい  
あんなさいいこいあんなをいこい  
あんなさいいこいあんなをいこい  
あんなさいいこいあんなをいこい  
あんなさいいこいあんなをいこい

花のありハ清<sup>いさぎよ</sup>くはまやあ<sup>いさぎよ</sup>のま





紙屋川

あどみかんの川とあはれやまの川とあはれやまの川  
 あらうたれやまの川とあはれやまの川とあはれやまの川  
 ためしやまの川とあはれやまの川とあはれやまの川  
 今業物のあはれやまの川

ひきたまのわがらうたれやまの川  
 町のまの川とあはれやまの川

いあめさ平野あはれやまの川  
 いあめさ平野あはれやまの川





かこやう八

平野

當社（まご）今未（いま）乃神（の）久考（く）の神（かみ）在兩神（ふた）相殿（あいに）比賣（ひめ）  
 神又（かみ）亦（また）一（いつ）らありし氏（うぢ）中（ちゆう）二（に）たりし氏（うぢ）中（ちゆう）三（さん）たりし  
 氏（うぢ）中（ちゆう）四（し）たりし氏（うぢ）とて八姓（はつせい）乃祖神（そご）ありえん  
 ぎ（き）の（の）中（ちゆう）一（いつ）らありし氏（うぢ）とて八姓（はつせい）乃祖神（そご）ありえん

枝乃花（えの）ハ（ハ）幣（ぬさ）一（いつ）の門（かど）とハ松（まつ）乃（の）聲（こゑ）  
 又（また）はの（の）こゝに（こゝ）平野（ひらの）と（と）あり。これハ仁徳（にとく）天皇（てんかう）の  
 所（ところ）あり







せんがん



今宮

尚社ハ一糸のわん乃の阿氏志と世のよあやもあられ  
 けつにしらびくされ登んやーろをたそく度腐の  
 神といひあさ先給ひ也ぞればとどあてうそ  
 てたまひつるに今宮今神あり神せんがんるた  
 ひうをらね也

ちあひさのよまてくをさりのりら  
 のと井とらびりけくさのたにまあを  
 今よりあゝあふあ命ーまうに神  
 花のちりやーあさくさく日  
 ちらに風よあねあねのうがあねのうあまうか







神のまゝのうゝてだちま地つららしあせそまよのが  
 ても地よらうもつらららどかしてわけらつららの神  
 も地下のいほ紐の神られたまひあありまよそ  
 つこのまのまよらどのみよはほみおがあおしら  
 とのけなまうあ也げあしそのれつららら  
 まよあごせけらあ今乃ねのえん神こまあり  
 ひのの神まあらこ中い月あまのうらぶる  
 かののかんせつらららららららららららららら  
 らあもそらうよのあらまよかひる  
 やあり侍はあつたまうぬ競るうか



かも

二

三

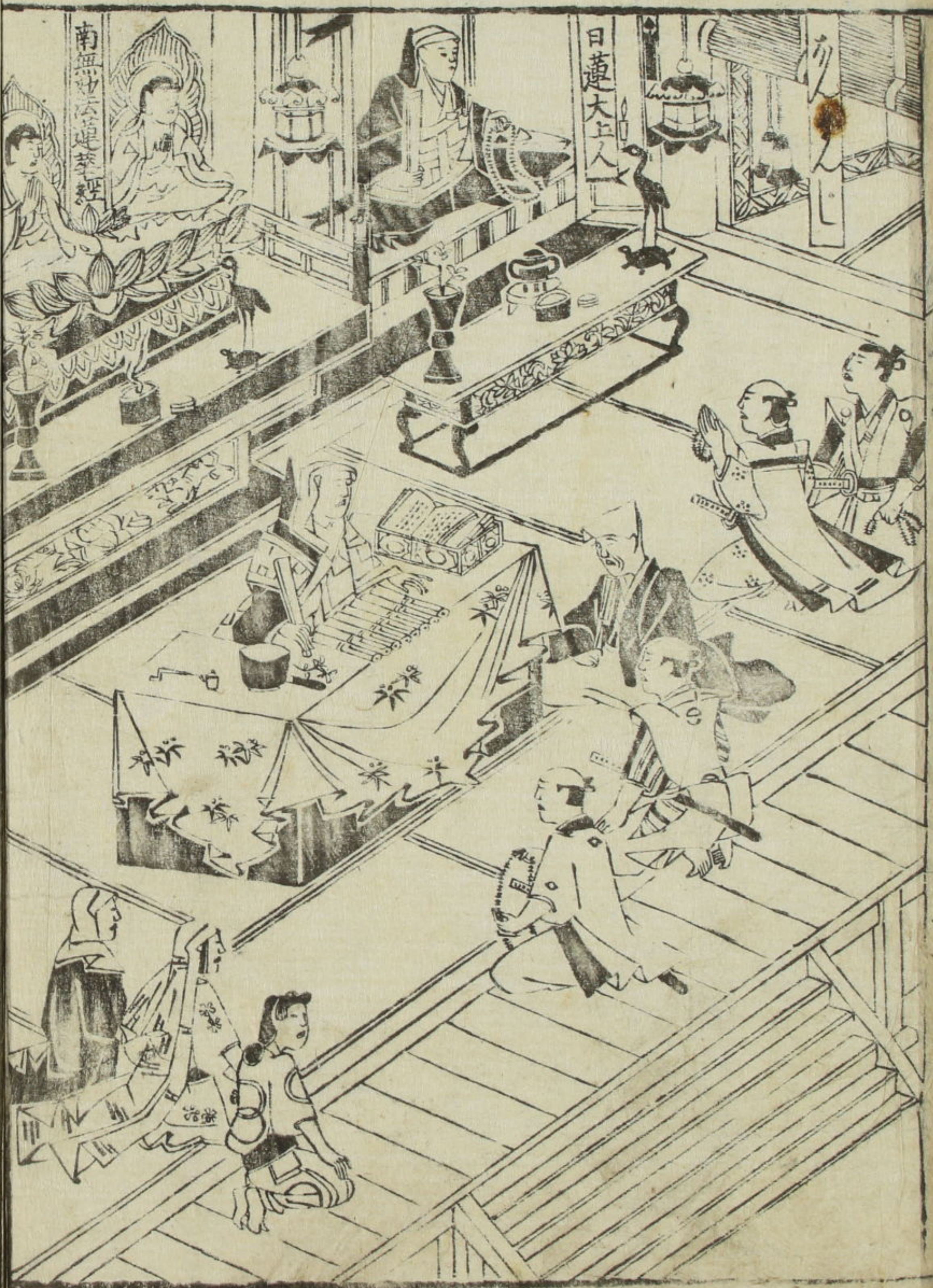








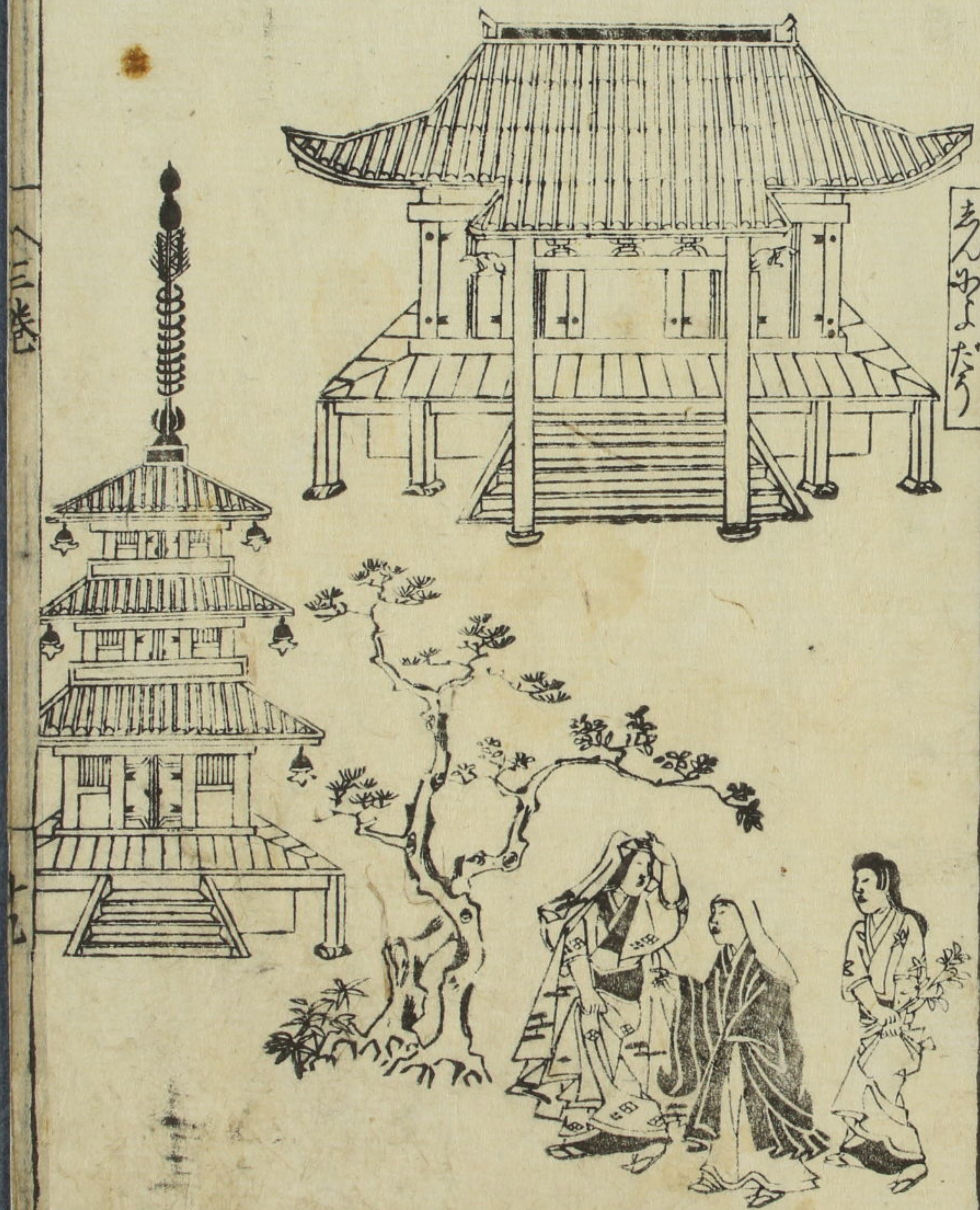




あんなあまたう

けんごんいあまごいほよりいざうくだい一の清さ  
 くあり。のりほひえのふりおりまうい海を  
 ろまごうれがうれいせたまういふありひえの  
 わまごんかろまうでたわとうぬゆいげ地  
 うらうりたまひみわうのつゝいあういせ人  
 とあまごひたさうりんだねありまねいハまの  
 つまうあまごあんなごういのまうだういさう  
 くだいごんやん<sup>ん</sup>身とてあまや福がなごん  
 どのえんのあまごたそいあんなあまの及をそ  
 だまうあまごいざうい





ま あそらふやうらさ命下し雲の巻  
 じ びやうしそおくれあま乃花れ風  
 わ あし咲花や登んす世のため  
 こ みくらふちりわら花やとまをこ  
 た だりありあはぬあのかか  
 ふ あるあし生花のうやむ乃  
 此 つるにゆなをさすり花あはれ







草堂

一 條乃かうたうとつふにだれをんどんとせあり  
い草堂とやんぞもくつ下の傍より約者上人  
とつふあり。實心公（せんしんこう）の毒城（どくじやう）りわきよりわきこ  
りもとこなまうふゆへくうふ草堂とんといふあり  
とことんゆめのつげとより聖後乃神相のこい  
らあり。概乃本（くわいのほん）としてせんぶらんどんたけ八正  
乃る傍とこいこむ川のわきより約者上人（やくしやうじやうじん）  
つとあてあんらとてあり。されは約者上人  
禊ひのそとたけゆり約者上人といふあり。あま  
こりもとよまをんこい人乃たせられしゆり。

草堂とよりとあり。先年一ちゆらくのたは  
とれはとこりうりまあや

花の袂せくやまよりと下りたう

又けあうのちの神とていふとてうりあり  
ゆまあり



うだうか









